

# スポーツ研究センターニューズレター

## 「2022北京冬季オリンピック」

追手門学院大学 スポーツ研究センター  
センター長 辰本 頼弘



昨年の2020東京オリンピック・パラリンピック（新型コロナウイルスの影響で1年延期）大会の閉幕から5ヶ月あまりで開催された北京冬季オリンピックをテレビでじっくりと観戦しました。おそらく、今までの冬季オリンピックの中では個人的に一番長い時間をテレビの視聴に費やしたと思います。北京でのオリンピック開催は2008年の夏季大会に続いて、夏冬大会を開催する史上初の都市となります。今大会も新型コロナウイルス下での開催となり、五輪会場の内外を完全に切り離すバブル方式の採用や他にも様々な感染対策が報道されていました。せっかくの立派な競技会場、本来なら各国からの観客で埋まり、その観客の熱い声援やため息が選手のパフォーマンスを更に高める様子がテレビを通して見られるのですが、それがなく非常に残念でなりません。ただそんな中、日本選手の獲得メダル数が過去最多の18個と、終わってみれば改めて凄いなあと感じています。

羽生結弦選手のクアッドアクセルの成功を見たかったなあ。ロコ・ソラーレの優勝を見たかったなあ。スピードスケート団体追い抜き優勝を見たかったなあ。ノルディックスキー・ジャンプ混合団体のメダルを見たかったなあ…。もちろん、小林陵侷選手のノーマルヒル、平野歩夢選手のハーフパイプ、高木美帆選手のスピードスケート1000mの金メダル、その他多くのメダル獲得、またメダル獲得には至らなかったものの選手たちの挑戦、すべてにおいて感動の詰まったオリンピックだったと思います。これらが、冒頭のテレビの視聴時間につながっています。

次回、2026年冬季オリンピックはミラノ／コルティナ・ダンパッツォでの開催。さて、どんなニューヒーロー、ニューヒロインが出てくるのか、今から非常に楽しみにしています。

今回は選手の活躍に目が行き、北京オリンピックのマスコットを全然思い出しません。（ビンドゥンドゥン）

最後に、今回のニューズレターも、地域スポーツ人材育成コンソーシアム会員による特別寄稿をお願いしました。寄稿いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

**特別寄稿****ウィズコロナにおけるスポーツ振興について**

追手門学院大学 地域スポーツ人材育成コンソーシアム 会員

シンコースポーツ株式会社 大阪支店 営業部 次長 豆野 伸彦



皆さまこんにちは。シンコースポーツ株式会社の豆野伸彦と申します。

弊社は、公共スポーツ施設・文化施設の管理運営会社であります。現在、茨木市様をはじめとする全国300施設の指定管理者としてスポーツの力で市民の「元気と笑顔」を少しでも多く作り上げることができればと日々尽力しています。近年、高齢化社会・健康意識の高まりにより、公共スポーツ施設の役割が増大し、ニーズの多様化によって高品質なサービス提供を求められるようになりました。

本来であればゴールデン・スポーツイヤーズとして、スポーツに注目が集まるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が進み、東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、無観客による大会開催となりました。国内においても、さまざまなスポーツ活動が中止・延期等を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が大幅に減少いたしました。弊社では、臨時休館によってスポーツ活動の場・機会が絶たれたお客様に対し、自宅でできる「生活筋力向上ゆっくりプログラム」などのオリジナル運動プログラムを施設ホームページから配信し、ストレスや運動不足の抑制に努めてまいりました。

また、株式会社NTT Sportict（NTTスポルティクト）と連携し、AIカメラ導入により試合の映像を記録として残し、スポーツ観戦が難しい状況においても家族やファンに活躍する姿を届け、ICT技術を活用した新しいスポーツ観戦様式により、地域スポーツを盛り上げる取組みを行っております。今も尚、コロナが猛威を振るう状況ですが、スポーツ人材育成コンソーシアム活動を通じて、知恵を出し合い、スポーツの力で明るい未来を構築するお手伝いをしていきたいと思っております。



オリジナルプログラムの無料動画配信



AIカメラによる撮影と映像配信

**特別寄稿****コロナ禍でのケーブルテレビとスポーツの関わり**

追手門学院大学 地域スポーツ人材育成コンソーシアム 会員

株式会社ジェイコムウエスト北摂局 (J:COM 北摂) 地域プロデューサー **重成 直子**

コロナ禍になって3度目の春がやってきました。今ではすっかり生活様式も変わり、マスク着用、アルコール消毒などが当たり前になりました。思い返せば2020年1月に日本国内で初めて確認された「新型コロナウイルス感染症」。約2年が経ちましたが、その間に様々なイベントや大会が中止となりました。

私が特に印象に残っているのは、2020年の夏の甲子園、「第102回全国高等学校野球選手権大会」が戦後初めて中止になったことです。一生に一度のことで、悔しい思いをされた高校球児もたくさんいると思います。たくさんの涙を流しながら、中止と聞いた時の高校球児の顔は今でも強く印象に残っています。

この時、残念ながら全国大会は中止になりましたが、大阪で開催する地方大会は開催されることになりました。地域密着のケーブルテレビを放送するJ:COMでは「令和2年大阪府高等学校野球大会」(地方大会)を1回戦から生中継し、少しでも多くの方に高校球児の熱いプレーをご覧いただくことで、日本の未来に希望の光を届けたいという思いがありました。取材班や生中継班を複数配置し、新型コロナウイルス感染症の対策を万全にしながら、今しかないこの一瞬の感動をリアルタイムでお届けできたのではと思っています。

ほかにも、リアルイベントの開催が困難なコロナ禍の制限を逆手にとって、オンラインでのイベントや動画を活用したイベント等、J:COMが得意とする分野も創意工夫し、積極的に活用しました。

私が所属している北摂局(茨木市・箕面市・摂津市を担当)でも、少しずつできることから始めてきました。「コロナ禍でもエンターテインメントを通じて、地域社会を盛り上げたい!」という思いで、「J:COM チャンネル」(地デジ11ch)で放送中の地域情報番組『つながるNews~北大阪~』を通して、様々な情報をお届けしています。

最近では、箕面市内で活動されているバスケットボール選手による「バスケットゴール寄贈式」や「バスケ教室」などを取り上げ、選手だけでなく、参加された地域の方々の声も紹介しました。東京2020パラリンピックの陸上競技で銀メダルと銅メダルを獲得した、和田伸也選手が8人目の茨木市市民栄誉賞を受賞された時には、茨木市のご協力のもと、式典の様子を撮影し、和田選手にもインタビューをすることができました。スポーツに対する思いや感動を少しでもお届けすることができたのではと思っています。また、スタジオでの密を回避するため、地域の皆さまにZoomを活用してリモート出演いただくなど、新たな撮影方法も取り入れながら番組を制作してきました。

コロナ禍での生活の変化で、様々なことが急に変わったように思いますが、どのような時代にも変化は求められます。常に変化を追い求め、地域のみなさまに役に立つ、期待されるメディア企業であり続けたいと考えています。







## 飛び出せ世界へ！

がんばる追大アスリート  
第8回

追手門学院大学硬式野球部／兵庫ブレーバース所属  
糟谷 颯さん（社会学部4年生）

今回の特集は野球に青春時代を賭けて努力している糟谷さんをピックアップします。以下の様に輝かしい競技歴と現在も独立リーグで活躍し、プロ野球を目指しています。

2017年 春季四国大会出場（高校三年）高知高校  
2020年 堺シュライクス入団 リーグ優勝 2021年 リーグ優勝 2連覇  
現在 兵庫ブレーバースに所属

### 野球をはじめたきっかけを教えてください。

きっかけは親の勧めでしたね。小学生のころ1つ上の兄が野球をしていて小さい頃から身近に野球がありました。阪神タイガースファンの家族もいていつもご飯を食べる時、阪神の試合が流れていました。

### 野球を続けて来て良かったことはありますか。

1つは、仲間の存在、友達が増えたことです。2つ目は、友達の存在が大きくて勉強も一緒に頑張ってくれたことです。勉強面では色々とお助けしてもらいました。3つ目は、年上や関わりのない人とのコミュニケーションが取れるようになったことです。特に挨拶に関しては、野球をやっている良かったと思うことが多いです。知らない人や目上の方に挨拶が出来る様になっている自分に気付きました。



### 野球をやめたくなくなったことはありますか。

とても多くありました。最初に思ったのは小学生の時です。上手くできなくて、周りと比較してしまい練習が楽しめなかったです。進学予定の中学校も野球部が無いところだったので中学校に入ったらやめようと思っていました。しかし、父に「そんな練習でプロになれるわけないぞ」と、喝を入れてもらったんですけどその時はポジティブに捉えられなかったです。

### 高校では強豪の高知高校へ進学されましたね。

高校では甲子園を目指して寮生活することになったのですが、とても辛かったです。親元を離れたこともありますけど先輩や寮のルールがすごく厳しかったです。それでも続けられたのは甲子園の存在があったからだと考えています。その時は活躍して野球で有名人になりたかったですね。エースになると思っていたのですが、同じクラスの友達がエースになりました。その友達の名前が雑誌や新聞に掲載され、羨ましかったです。自分も一応載っていましたが「左腕・糟谷」だけでした。一番の思い出は最後の夏の大会にメンバー入りできなかったことです。ピッチャーでメンバー入りする予定でしたが、メンバー発表の時に外れてしまいました。その時は1週間程ご飯を食べられなかったです。その時は本気で野球をやめようと思いました。体重も4キロ程落ちて、推薦をいただいていた大学もお断りしました。しかし、大会前日までメンバー変更ができる為、友達が監督に異議を申し立てに行っていたことがありました。そういった姿から責任と期待を感じて、大学でも野球を続けようと思いました。大学では即戦力になれて、友達や先輩も受け入れて下さり楽しんで過ごせました。

甲子園に出場していたら満足して辞めていたかもしれません。

### あらためて追手門学院大学での野球はどうでしたか。

先ほども話しましたが、大学では即戦力になることができました。しかし、生活費のこともあり両親には迷惑かけなかったのですが、バイトをしながらトレーニングに行っていたのですが、その生活は選手として良くなかったと思います。もう少し1年生の時から野球に打ち込めていたら良かったと思います。

### ■米国での経験について教えてください。

アメリカで驚いたことは野球を小さい頃から、理論に基づいてトレーニングしていたことです。リベラ選手のトレーナーだったクリスさんという方と小中高の年代に野球を教えている日本人コーチと練習していました。ジュニア年代から根性論とかはなかったです。日本では考えられないトレーニング方法が数多くありました。また子どもたちは遊びの中で野球をしていました。そういったことから育成に関心を持たれたことは良かったです。

### ■今後の夢、目標を教えてください。

今プレーしているチームである兵庫ブレーブスには元プロ選手が在籍していて、近いうちにドラフトに挙がる選手も2人～3人います。今はその中の1人に入ってやろうという気持ちです。今いる選手にポジション争いで負けてしまっただけで、注目されないと思うので、頑張っていきたいです。それも含めて自分にとって良い環境だと感じています。



### ■好きな言葉や座右の銘はなんですか。

家でよく言われたのは「何事にも全力」です。座右の銘は「明日死ぬかのように生きろ。永遠に生きるかのように学べ。」です。毎日がルーチン化してしまい時間が過ぎてしまうのがとても早く感じます。これらの言葉が自分に対して「プロにいけるのか？」という疑問をいつも投げかけてくれました。今から凄い選手になるプロセスを歩むために日記を書いています。1日の考えや感じたことをまとめているのですが、いつも現状の打開にアイデアをくれる言葉です。

### ■追手門学院大学の学生に送るメッセージをください。

何か自分の軸になり目標になることを定めることは大切だと思います。私だったらメジャーに行くこと、プロになることを決めて、それに沿った行動や努力をしていく。そういった時間を過ごすために定めた目標を毎日思い出して忘れないことを大切にしてほしいです。

(2022年2月9日に実施。聞き手：スポーツ研究センター 馬込 卓弥)



## 飛び出せ世界へ！

がんばる追大アスリート  
第9回

東京パラリンピック 車いす女子バスケットボール日本代表  
北間 優衣さん（社会学部 2017年3月卒業）

2021年に開催された東京パラリンピック車いす女子バスケットボール日本代表で活躍された卒業生・北間優衣選手を本学にお招きし、対談をさせていただきました。東京パラリンピックの話題を中心に紹介させていただきます。

### ■車いすバスケットに出会った時期やきっかけは何ですか。

出会いは中学生の頃、当時のバスケ部の顧問の先生が、兵庫県伊丹市にスーパーフェニックスという車いすバスケットボールのチームがあると教えてくれて一緒に見学に行ったことがきっかけです。男性チームだったのですが、見学して「私もできる！」という気持ちが強く、コートの一隅で練習に参加させてもらったのがきっかけです。

### ■車いすバスケットボールを始めて、日本代表を意識し始めたのはいつ頃ですか。

中学3年から代表合宿に参加して、選出されてから10年になります。始めた当初は、いつまでに目指すという明確な目標はなかったのですが、将来的にはチャレンジしたいとイメージがありました。2012年広州アジアパラリンピックから日本代表に選んでいただきましたが、最初はサプライズ招集だと思っていました。最初の頃は日本代表や日の丸の重みを理解していませんでしたが、色々な試合を経験させていただいて、日本代表ってこういう舞台なんだな、こういう重みがあるんだなという意識が強くなりました。



### ■日本代表が長いと、苦しい経験や、しんどいことが沢山あると思います。乗り越え方があれば教えてください。

私にとって東京大会は、予選で負けたリオ大会からの6年間になります。延期になって皆さん5年と言いますが、リオ大会の前年である2015年の予選で負けたときから東京への道はスタートしました。6年間という長い時間は辛かったことのほうが断然多かったです。乗り切れたのは、東京パラリンピックに出ると決めていたことが一番大きいと思います。決めてから仕事環境、競技環境を整えました。

そこに関係してくださった方々の思いもあり、苦しいこと大変なことがあっても辞めるという選択肢は6年間なかったです。目標の意志が強かったので、乗り切れたと思っています。そして友人の存在が大きかったです。

### ■友人の存在とは、車いすバスケットの友人ですか。

学生のころからバスケをしていることを知っている友人です。しんどい時は一時的に完全に競技のことを考えない日を作ります。友人は、話を聞いてくれる、リフレッシュをさせてくれる時間を作ってくれます。リフレッシュすることと、あとは完全に自分の思いだけで乗り切ってきました。

### ■リオ大会から東京大会に向けて一般には4年ですが、リオ大会予選からの6年間というスパンは強い気持ちと友人に支えられたことが大きかったですね。

自分の代表の中での立場は、リオ大会までは引っ張ってもらう側でしたが、東京大会ではどんどん自分の競技歴も長くなり、自分自身が引っ張っていく立場や責任が出てきました。

### ■コロナで開催が1年延期になりました。簡単に気持ちは切り替えられないと思いますが、その時の気持ちはどうでしたか。

「延期になります」と言われた時は、3月下旬だったので、調整に入っていました。代表合宿はずっと続くとしんどいです。この苦しい時期が終わるって自分の中でカウントダウンが入っていたので頑張っていました。そこが1

年延びたことで「練習できる期間が長くなったとプラスに捉える」とメディアでコメントが出ていて、考えなかったわけではないです。正直なところ「誰も悪くないけど、また1年頑張らないといけないのか」と思いました。世界中みんな同じなので、クヨクヨしていても仕方がないから行動しようと気持ちを切り替えました。

また、緊急事態宣言が出たことで、体育館・トレーニング施設が使えないという影響がありました。今まで体育館でしかできないと考えていたことが自宅できるという新しい発見があり、コロナ禍で時間の使い方が上手になりました。



■今回チームを引っ張る立場で活躍されましたが、2024年のパリ大会はどのように考えていますか。

正直、今はパリを目指します！とは言いきれませんが、東京を終えてパリを目指すかどうかの分岐点ですが、まだ迷いの部分があり、性格上、手を挙げるべきじゃないと考えています。ただバスケを辞めるわけではないので、今の立場だからこそできることに注力したいと思っています。

■現在所属されている日本生命では、競技と仕事を両立できる環境なのですか。

大学を卒業してから、ずっと良い環境で競技ができています。入社してからは、週2日職場に出勤して3日は競技をする環境を作ってもらっています。100%アスリート雇用で競技環境を整えることもできましたが、30歳になって初めて社会にでると、新卒で社会との関わりを持ったまま競技を続けるのでは、10年先の社会人としてのスキルは絶対に変わると考えていました。それなら皆さんのように100%ではないですけど、社会人としても成長したいと思い、適切な環境を整えました。



■最後に追手門学院大学の後輩の皆さんへメッセージをお願いします。

パラリンピックでは、沢山のご声援ありがとうございました。無観客でしたが、皆さんの応援が毎日届いてきて、沢山の人が見てくれた大会だと改めて思っています。私はパラリンピック出場という夢を叶えることができました。沢山つらいことや大変なこともありましたが、皆さんもあると思いますが、その先に夢を掴むことができたり、新たな学びを得ることができると思います。ぜひ皆さん頑張ってください。

(2021年10月27日に実施。聞き手：スポーツ研究センター 巽 樹理)



## 第11回 追手門学院大学杯 5年生交流大会 観戦記

2021年12月11日(土)・12日(日)・18日(土)の3日間、茨木市スポーツ少年団野球部会に所属する16チームから8チームが選ばれ、5年生交流大会を大学野球場(第2グラウンド)で実施しました。まだまだ新型コロナウイルス感染症が落ち着かない中、スポーツ少年団および大学とも万全の感染予防に力を入れ「コロナに負けじ」と熱戦が繰り広げられました。いつもは6年生が主体となる大会ですが、今回は5年生の交流戦として次年度を担う選手での開催となりました。

毎年この時期の開催は寒さが厳しいのが常でありましたが、今回は穏やかな日に恵まれ寒さを忘れての大会運営となりました。3日間ともトーナメント戦が行われ、1日目は8チームから準決勝に4チームが、2日目は決勝に進む2チームと敗者での3位決定戦が開催され、3日目は決勝の1試合が行われました。どの試合も1点を争う好ゲームが見られ、5年生ながらレベルの高さを各チームに感じました。来年の第12回大会は、新型コロナウイルス感染症が収まり、今年以上にグラウンドに声が響き、思い切ったプレーが見られることを期待したいと思っています。

(報告:辰本 頼弘)



## 「はつらつ運動サークル」と「ボッチャ健康サークル」の実施状況

はつらつ運動サークルとボッチャ健康サークルの参加者は高齢の皆さんですので、下表の通り、2021年度もコロナ感染予防の観点から活動の中断を余儀なくされました。しかし外出しない巣ごもり状態は、体力の低下を加速しますので、社会情勢を確認しながら、可能な限り活動を実施しました。2020年度は、「はつらつ」が0回、「ボッチャ」が10回の実施でしたので、新しい生活様式の中で、段階的にサークル活動を復活させることができたことを大変嬉しく思っています。

はつらつ運動サークルでは、春・秋の学期に合わせて週に一回、追大体育館、西河原市民プール、五十鈴市民プールの各所で酸素運動を中心としたトレーニング(1回45分間)を行いました。各種体力や動脈ステイブネス(血管年齢)、体組成などの測定を学期の前・後に行い、トレーニング効果を確認しています。また、ボッチャ健康サークルでは、ゲームを中心とした活動を通して、交流を楽しみながら、プレー技術を磨きました(1回60分間)。昨年12月の茨木市の交流大会に、2年ぶりに安威から2チームが出場しましたがメダル獲得はなりません(4位)。しかし、緊張感のある試合を一喜一憂しながらも存分に楽しんでおられたのが印象的でした。

今後もサークル活動を継続し、参加者の皆さんが健康・体力づくりを継続できるよう、応援していきたいと思えます。

(報告:松井 健)



図 ボッチャ健康サークル

<はつらつ運動サークル>

□ 実施 □ 中止

★春日程 (西河原:西河原市民プール,五十鈴:五十鈴市民プール,追大:追大体育館)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
西河原	金	4/2	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25
五十鈴	水	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30
追大	月	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5

春の参加者数:西河原31名/累積36名,五十鈴5名/累計6名,追大23名/累計26名

★秋日程

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
西河原	金	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	1/7
五十鈴	水	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	1/5	1/12
追大	月	10/4	10/11	10/18	10/25	11/2(休)	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10

秋の参加者数:西河原28名/累計311名,五十鈴4名/累計36名,追大22名/累計269名

<ボッチャ健康サークル>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2・第4火曜	13日	11日	8日	13日	20日	14日	12日	9日	14日	11日	8日	1日
	27日	25日	22日	20日	24日	28日	26日	30日	21日	25日	22日	8日

参加者数16名,累計参加者数130名(2月末時点)

表 2021年度のサークル実施状況

## 追手門学院大学 スポーツ研究センターニューズレター No.13

■ 編集・発行 2022年3月31日

■ 編集代表者 辰本 頼弘

■ 発行所 追手門学院大学 スポーツ研究センター

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

TEL/072(641)9690

FAX/072(641)9695 (事務局:学長室)

E-mail sports@otemon.ac.jp

https://www.otemon.ac.jp/research/lab0/csr.html